

## 日浅和枝先生のご退職にあたって

小柳 康子

### 旅行とバラと推理小説

日浅先生をとうとうご定年でお送りすることになり、寂しい限りです。実践女子大学の英文学科だけでなく社会そのものも大きく変貌する中で、先生は、変わらないもの、というより、変わってはいけないものを私たちに教えて下さいました。学生たちには遅刻してはいけないことを厳しく諭す一方で、同時に授業ではシェイクスピアの変わることのない面白さを教えてくださいました。間違っただけや原則を曲げることをしたときには、きっぱりと注意をして下さいましたが、眼鏡の奥にある眼差しには、常に相手を思いやる暖かさユーモアがありました。

実践女子大学の英文学科を卒業して学園の中学・高校で教鞭をとられた後、明治学院大学大学院に進まれた先生は、研究者としてのご自分のあるべき姿を早い時期から定められていたのではないのでしょうか。それは、2001年から2003年まで主任を、その後2006年までの3年間は図書館長を勤められるというお忙しい中でも、毎年論文を発表されるという姿に集約されていたと思います。また学生指導や様々な形態の入学試験やオープン・キャンパスが増える一方の近年でも、先生は最後までご自分のなすべきことはきちんと行って下さり、本当に助けられました。

日浅先生は、バラの花びらの「おひたし」を好み、推理小説と海外旅行を愛する人間味溢れる女性です。ばらの花びらを煮出した時のお湯の色の美しさや、イスラエルの嘆きの壁を見たときの感慨、チェコの伝統芸術である人形劇を見たときの話など、興味深い貴重な体験をお聞きするのはとても楽しいことでした。これからは健康に留意されて、ガーデニングや海外旅行や推理小説を思う存分堪能してください。英文学科スタッフ一同も、先生にご心配をかけないよう、新しい学科の在り様を模索し続けてまいります。

## 日浅和枝略歴

1938年 5月12日 東京生まれ

### 学歴等

1957年 3月 東京都立桜町高等学校卒業  
 1958年 4月 実践女子大学文家政学部英文学科入学  
 1961年11月 東京都教員資格試験 A合格  
 1962年 3月 実践女子大学文家政学部英文学科卒業 文学士  
 1966年 4月 明治学院大学大学院文学研究科英文学専攻修士課程入学  
 1968年 3月 明治学院大学大学院文学研究科英文学専攻修士課程修了  
 文学修士  
 1968年 4月 明治学院大学大学院文学研究科英文学専攻博士課程入学  
 1969年 7・12月 早稲田大学語学教育研究所第8期・第10期語学教育研究会修了  
 1970年 7月 文化庁昭和45年度日本語教育研修会修了  
 1971年 3月 明治学院大学大学院文学研究科英文学専攻博士課程単位取得満  
 期退学

### 職歴等

1962年 4月—1966年 3月 実践女子学園中学高等学校英語科専任教諭  
 1971年 4月—1976年 7月 明治学院大学、駒沢大学非常勤講師  
 1971年 4月—1973年 3月 早稲田大学国際部日本語教育非常勤講師  
 1976年 8月—1981年 3月 筑波大学現代語現代文化学系準研究員  
 1981年 4月—1997年 3月 明治学院大学非常勤講師  
 1982年 4月—1986年 3月 北里大学非常勤講師  
 1982年 4月—1987年 3月 大東文化大学、関東学院大学非常勤講師  
 1983年 4月—1987年 3月 神奈川大学非常勤講師  
 1987年 4月 実践女子大学文学部専任講師  
 1990年 4月 実践女子大学文学部助教授  
 1995年 4月 実践女子大学文学部教授

### 学内における活動

2001年 4月—2003年 3月 実践女子大学文学部英文学科主任

2003年4月—2006年3月 実践女子大学・短期大学図書館長  
 2004年10月—11月 実践女子大学英文学科創設80周年英文学科関係図書  
 展示会担当

卒業論文指導 シェイクスピア86名、 ブロンテ姉妹93名、 他計207名  
 修士論文指導 シェイクスピア3名

#### 所属学会

日本シェイクスピア協会  
 日本英文学会

#### 研究業績等（すべて単著）

- 1 卒業論文：エドガー・A・ポーの文体について 1962
- 2 エドガー・ポーの文体について 1964 実践文学第21号
- 3 修士論文：A Study of Shakespeare's Vocabulary 1968
- 4 口頭発表：シェイクスピアと慣用表現 1972 第11回シェイクスピア学会
- 5 『アセンズのタイモン』—3幕1, 2, 3場の意味 1976  
 明治学院大学大学院英語英文学研究同人誌シルフェ第16号
- 6 シェイクスピアの言葉遊び 1977 筑波大学言語文化論集第2号
- 7 翻訳：初期の批評と伝記 1979 シェイクスピア論シリーズ1,  
 成田成寿・三神勲監修 荒竹出版
- 8 リチャード三世の構成 1979 筑波大学言語文化論集第7号
- 9 シェイクスピアの言葉遊び—固有名詞と pun 1980 シルフェ第19号
- 10 シェイクスピアの言葉遊び—『間違いの喜劇』 1982 シルフェ第21号
- 11 『ヴェロナの二紳士』—アイロニーと悪漢 1983 シルフェ第22号
- 12 フォルスタフ哄笑す 1983 郡司利男編『悪魔の言語学』開拓社
- 13 『タイタス・アンドロニカス』—言葉遊びと構成 1984 シルフェ第23号
- 14 『ジョン王』—言葉遊びと構成 1984  
 三神勲教授喜寿記念論集『シェイクスピアの四季』篠崎書林
- 15 『リチャード二世』—王位喪失と言葉遊び 1987 実践英文学第31号
- 16 『恋の骨折り損』—言葉と実体 1988 実践女子大学文学部紀要第30集
- 17 シェイクスピアの語彙(I)否定接辞 in- と un- 1988 実践英文学第33号
- 18 『ジュリアス・シーザー』—言葉遊びとアイロニー 1988 シルフェ第27号
- 19 『お気に召すまま』—言葉遊びと人物設定 1989 実践女子大学文学部紀要第31集

- 20 『じゃじゃ馬馴らし』の方法—その言葉遊び 1989 シルフェ第28号
- 21 シェイクスピアの語彙 (II) —『ハムレット』に関して  
1989 実践英文学第35号
- 22 シェイクスピアの語彙 (III) —複合語 1990 実践英文学第37号
- 23 『十二夜』—wise enough to play the fool 1990 実践英文学第38号
- 24 T. キッド『スペインの悲劇』—no life, but liuely fourme of death  
1991 実践女子大学文学部紀要第33集
- 25 『夏の夜の夢』—in remembrance of a shroud 1991 シルフェ第30号
- 26 C. マーロウ『エドワード二世』の悲劇性—If I be king, 1992 実践英文学第41号
- 27 J. ウェブスター『マルフィ公夫人』—ボソラの変容 1993 実践女子大学文学部紀要第35集
- 28 『復讐者の悲劇』—Vengeance, thou murder's quit-rent  
1994 実践英文学第44号
- 29 『ブッシー・ダンボワ』—タミラの悲劇性 1994 実践女子大学文学部紀要第36集
- 30 『女よ女に用心せよ』の社会悲劇 1995 実践女子大学文学部紀要第37集
- 31 J. フォード『裂けた心』—the silent griefs which cut the heart-strings  
1996 実践女子大学文学部紀要第38集
- 32 J. ウェブスター『白い悪魔』—This busy trade of life 1997 実践女子大学文学部紀要第39集
- 33 *Waiting for Godot* への一考察 1998 実践英文学第50号
- 34 『チェンジリング』—Here's beauty chang'd to ugly whoredom  
1998 実践女子大学文学部紀要第40集
- 35 『トロイラスとクレシダ』—サーサイティズの視点 1999 実践女子大学文学部紀要第41集
- 36 『尺には尺を』—量りの揺れ 2000 実践女子大学文学部紀要第42集
- 37 『アントニーとクレオパトラ』—this knot intrinsicate of life  
2001 実践女子大学文学部紀要第43集
- 38 『冬物語』—オートリカスとクラウン 2004 実践女子大学文学部紀要第46集
- 39 『テンペスト』—アントニオかキャリバンか 2005 実践女子大学文学部紀要第47集
- 40 『リア王』—エドガーとトム 2006 実践女子大学文学部紀要第48集
- 41 『オセロ』—イアゴの成功と失敗 2007 実践女子大学文学部紀要第49集
- 42 『マクベス』—strange and certain 2008 実践女子大学文学部紀要第50集
- 43 T. Middleton: *A Game at Chess* に観る17世紀初頭のイングランド  
2008 実践英文学第60号
- 44 *Volpone : or, The Fox* —Foolへの賛歌 2009 実践英文学第61号
- 45 シェイクスピア考察—人と言葉の興宴 2009 (3月刊行予定) 英潮社